海外臨床薬学研修　報告書

研修期間：令和 7 年 2 月 12 日～7 年 2 月 21 日
所　　属：名城大学薬学部薬学科
学　　年：4 年
学籍番号：210973308
氏　　名：上岡小桃

１．参加目的

私は以前からドラッグラグ、ドラッグロスをはじめとする日本の医療課題に関心があり、アメリカと日本の医療体制の違いを知りたいと感じていた。そのため、薬学部教育を通してアメリカの医療について学ぶことのできる今回のプログラムに参加した。

２．研修内容

【研修テーマ】アメリカにおける薬学教育、薬剤師の職能、医療体制について学ぶ

【研修日程】

月日	研修内容
2 月 13 日	Arizona university について Pharmacy education in the US アドヒアランスについて
2 月 14 日	留学生の方の話 薬剤師の役割について HIV について 病院見学 アメリカの保険制度について
2 月 15 日	【観光】natrium museum、old Tucson、Walmart で買い物，食事会
2 月 16 日	【観光】4th avenue で買い物、バスケットボール観戦、食事会
2 月 17 日	抗菌薬の授業 Lab 見学 ワクチン接種について 留学生の方の話 【観光】Fox シアターで音楽鑑賞
2 月 18 日	薬剤師の業務について Pharmacy museum ツアー Poison preparation ツアー 食事会
2 月 19 日	CVS 見学 プレゼンテーション

	細菌の授業 オピオイドについて

【研修内容の詳細】

今回の研修を通じて、アメリカと日本の薬剤師制度や医療環境の違いを多く学ぶことができた。

アリゾナ大学では薬剤師の育成に力を入れており、特に知識よりもスキルを重視し、基礎を 2 年間、実践を 4 年間かけて学ぶ教育制度や、teaching を重視する学習法が日本と大きく異なる点だった。また、アメリカの薬局ではテクニシャンの多さや、ナースのみのクリニックが隣接している点、電子処方箋の導入など、日本よりも効率的なシステムが整っていた。一方で、薬剤師の業務負担が大きく、OTC 指導が十分に行われていないという課題も見られた。授業ではスタイルが異なり、スライドがシンプルで、講師が積極的に問いかけを行い、学生が意見を述べる機会が多いことや、症例を基に学生が推理する形式が印象的だった。また、ワクチンに関する講義では、アメリカではワクチン接種で医師に報酬が入らないことを知り、日本で薬剤師がワクチン接種を行うことの難しさを知った。オピオイドクライシスに対する取り組みでは、ブプレノルフィン、メサドン、ナロキソンを比較しながら治療法を検討し、患者の快適さを追求しながら偏見をなくす取り組みを行っていた。

３．感想

今回の研修を通じて、アメリカの薬剤師制度や医療環境の違いに驚くことが多くあった。特に、薬剤師がワクチン接種を行うことが一般的である点に衝撃を受け、その実務や教育体制を学べたことが良かった．日本でも導入したいと感じたが、制度的な制約が多く、実現の難しさを改めて感じた。また、アメリカの薬剤師は対人業務が重視され、医療チームの一員として積極的に関与している点が理想的だった。一方、OTC 医薬品の取り締まりが緩く、保険制度にも課題があるため、日本の方が優れていると感じる部分も多くあった。特に、日本の保険制度は広く普及しており、誰もが必要な医療を受けやすい点は大きな利点だと再認識した。さらに、アメリカではオピオイドクライシスが深刻な社会問題となっており、薬物依存に対する対策が進められていることを知った。これに対し、日本は服薬コンプライアンスが高く、薬剤の適正使用が比較的徹底されている点は強みであると感じた。

今回の研修を通じて、アメリカの薬剤師の働き方や医療制度の長所を学びつつ、日本の制度の良さも再認識することができた。今後は両国の良い点を活かし、より良い医療提供を目指したいと思う。